

梅若研能会

十二月公演



【俊寛】梅若万三郎 (前島写真店)

令和7年12月6日(土) 13時始 (開場12時)
 於 国立能楽堂

National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
 Saturday 6 December 2025 Start 13:00 (door open 12:00)

国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
 ☎03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分

入場料 (全席指定)

指定席 A	7,000円	指定席 B	6,000円
指定席 C	4,000円	指定席 GB	5,000円

※学生は各席種 3,000円引き
 お問い合わせ・お申し込み
 e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>
 カンフェティ TEL050-3092-0051 (平日10:00-17:00)
<http://www.confetti-web.com/umeken>

主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041
 <メールアドレス> staff@umewakakennohkai.com
 <ホームページ> <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

令和8年一月公演のご案内

令和8年1月12日(日・祝) 午後1時始 (12時開場) 於: 国立能楽堂

翁 翁 梅若 志長 千歳 梅若 紀長
 三番叟 野村 祐基 面箱 中村 修一

狂言文 藏 シテ 野村 万作
 仕舞高 砂 シテ 加藤 眞悟 東北クセ シテ 梅若 泰志
 能 小鍛治 シテ 梅若 紀佳



【三輪】梅若万三郎 (前島写真店)

能「三輪」「俊寛」みどころ講座

11月15日(土) 13:00 ~ 15:00
 於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研究会入場券購入者は無料)

講師 「三輪」八田 達也 (はった たつや)
 「俊寛」加藤 眞悟 (かとう しんご)

梅若研能会十二月例会

令和七年十二月六日(土) 十三時始(十二時開場)
於 国立能楽堂

仕舞
楊貴妃
鞍馬天狗

中村 裕
萩原 郁也

加野 鉄音
長谷川晴彦
伊藤 嘉章
古室 知也

能 三 輪

前シテ(里 女) 八田 達弥
後シテ(三輪明神)

ワキ(玄寶僧都) 安田 登
ア イ(里 人) 善竹大二郎

大鼓 柿原 光博
小鼓 飯田 清一

太鼓 桜井 均
笛 一噌 幸弘



八田 達弥

後見
梅若 雅一
梅若 紀長

梅若千音世 遠田 修
梅若 紀佳 伊藤 嘉章
中村 政裕 青木 一郎
青木 健一 梅若 泰志

休憩 十五分

狂言 昆布売

シテ(天 名) 善竹 十郎

アド(昆布売) 野島 伸仁

後見 善竹大二郎

舞囃子 班 女

シテ 遠田 修

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 飯田 清一

笛 一噌 幸弘

休憩 十五分

(三時五十五分頃)

ツレ(平判官入道康頼) 長谷川晴彦
ツレ(丹波少将成経) 古室 知也

シテ(俊 寛) 加藤 眞悟

能 俊 寛

ワキ(赦免使) 大日方 寛

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 観世新九郎

笛 栗林 祐輔



加藤 眞悟

ア イ(船 頭) 善竹 十郎

後見
梅若 紀佳
梅若 雅一

加野 鉄音 青木 健一
梅若千音世 伊藤 嘉章
萩原 郁也 梅若 紀長
梅若 志長 梅若 泰志

(終了予定 五時五十分頃)

能 三輪 (みわ)

大和国・三輪の里に住む僧・玄寶(ワキ)の庵に毎日櫛と鬘の水を供える里の女(前シテ)は、秋の夜寒をしのぐ衣を玄寶に所望する。衣を与え住処を問うと、女は古歌を詠じ姿を消す。やがて玄寶が三輪山の神木の杉を訪れると先に女に与えた衣が掛かっている、木陰から女姿の三輪明神(後シテ)が現れ、衆生を救うため悩める人間と同じ境遇に寄り添う神の苦しみの救いを僧に求め、苧環の糸の三輪の妻訪いや、天照大神の天岩戸隠れの神話を語ると、神楽を舞い伊勢と三輪の神が一体であると説き、姿を消す。

狂言 昆布売 (こぶうり)

出掛ける折に、太刀を持たせる供のいない大名(シテ)は、仕方なく自分で太刀を持ち外出する。そこへ通りかかった昆布売(アド)を太刀でおどしつけ無理矢理太刀持ちの家来にしてしまうが……。

舞囃子 班女 (はんじょ)

野上の宿を追い出されて行方知れずとなった遊女・花子を捜し下賀茂神社に参詣した吉田少将。そこへ現れた班女と呼ばれる狂女(シテ)は、前漢の武帝と寵姫・班女の恋を扇にからめて語り舞う。舞囃子では故事を語り舞う場面で終わるが、かつて互いに扇を取り交わしていた少将と花子は、この後、扇により再会を果たすこととなる。

能 俊寛 (しゅんかん)

平家打倒を謀った罪により鬼界島に流された俊寛(シテ)・康頼(ツレ)・成経(ツレ)の三人。清盛の娘で高倉天皇の後となった中宮徳子の安産祈願のため大赦が行われることとなり、赦免使(ワキ)が向かう。島では勸請した熊野三社に康頼と成経が参詣するものの、神信心をしない俊寛は二人の帰りを待ち、水桶の水を酒とみなして酌み交わし、今の境遇を嘆き合うと、船で赦免使がやってくる。康頼に赦免状を読み上げさせると、俊寛の名がないので読み落とししかと自ら赦免状に目を通すと、自分の名前が記されていないので、筆者の誤りを疑う俊寛だが、使者から俊寛のみ赦されていないことを知らされ悲嘆にくれる。やがて船の出発時刻となると必死の思いで乗船を乞うが、願いもむなしく俊寛はただ一人、南海の孤島に残されるのだった。